

# 野菜だより(10)緑の光で蛾を寄せつけない

## — 綾部研究拠点 —

野菜栽培には夜蛾が大敵です。夜蛾とは、ハスモンヨトウやカブラヤガなど夜中に畑にきて産卵し、幼虫が野菜を食い荒らす蛾のことをいいます。対策として暗闇で交尾・産卵する夜蛾の性質を逆手に取って、夜間に黄色ランプを点灯し昼間と勘違いさせるといった方法が普及しています。農薬も減らせる有効な方法ですが、光の強さによっては、野菜の生育に影響があります。イチゴでは花の着く時期が遅れて生産計画にずれが生じたり、収量が減るおそれがあります。そこで開発されたのが緑色ランプです。このランプの緑色の光は、夜蛾への効果は変わらずに野菜栽培に不都合な波長の光の割合が少ないので、黄色ランプよりも実用性が高いはずです。とはいっても、実際にどのくらいの明るさまでよいのか、綾部研究拠点では緑色ランプによるイチゴの生育や花芽分化への影響を研究しています。



イチゴのプランター栽培と緑色蛍光灯



幼虫 体長: 40mm



成虫 体長: 15~20mm

ハスモンヨトウ  
の幼虫と成虫



夜蛾類によるイチゴの花(上)と葉(左)の食害